

魅力向上 志願者確保へ

県立浜坂高、新温泉町立2中と「連携型一貫教育校」

来年4月からグローバル■ふるさとと教育

県立浜坂高校と新温泉町立浜坂、夢が丘中学校が来年4月から、但馬地域では初となる「連携型中高一貫教育校」に移行する。ふるさと教育の推進やグローバルな人材育成などを軸に、中高の垣根を越えた教育を実施する方針で、高校としての特色を高めて、志願者を確保したい考えだ。

（熊谷暢聡）

町内唯一の高校となる浜坂高には今春、両中学校の卒業生約100人のうち、半数余りが入学した。しかし、近年は少子化に加え、近接する鳥取県内の高校を選択する生徒の割合が増加。浜坂高に進学する生徒の減少が課題となっている。

こうした事態を踏まえ、町教委は学校の特色づくりの一環で、中高連携の取り組みを4年前に開始。教員間の情報交換のほか、高校への外国語指導助手（ALT）の派遣や、高校教員による中学校での出前授業などを既に実施しており、学校の設置者が異なる場合でも導入できる「連携型中高一貫教育校」を開設するこ

とになった。町教委などによると、教育課程や教員間の連携を深めることが可能で、地域課

題の解決策を考える「ふるさと教育」で中高の連続性を持たせられる。また、浜

坂高が実施している台湾・屏東県の学校との姉妹校交流を中学校にも広げ、語学力やコミュニケーション能力の向上につなげる。

入試方法も変更になり、募集定員の75%が両中学校を卒業予定の生徒が対象の「連携型選抜」（2月実施）を実施。残りは一般入試で

県内全域から募る。

町教委は「町から高校をなくすわけにはいかない。町と高校が連携して学校の魅力をつくらせていく。グローバル教育とふるさと教育に魅力を感じ、進学する生徒が増えてほしい」としている。

県立高校ではこれまでに氷上西（丹波市）、千種（宍粟市）で連携型中高一貫教育校が導入されている。